



動画視聴

誰ひとり取り残されないまちづくりを



社民・国民民主・護憲クラブ

古庄 和秀 議員

市庁舎整備

問 2月の定例会からの経過を踏まえ、様々なことを考えられたと思う。改めて中尾市長の市庁舎整備についての考えを聞きたい。

答 3月に議会から指摘を受け、各種団体との意見交換会や市民への説明会等を行った。

市庁舎の整備は、庁舎の安全性の確保や市民サービスの向上といった観点から早急に進めていくべき案件と考えている。

問 今任期中に方向性を決定したいとのことだが。

答 市民アンケート調査の結果を踏まえ、基本方針の検討を行い、方向性を決定し、その後に基本構想策定、予算案、附属機関の設置条例の改正案などを議会に提案したい。

再発言 新しい市長が就任してから、これまでの経過を踏まえ、方向性を示されるよう、強く要望する。

誰一人取り残されないまちづくり

問 8月に、二人の知人が孤

独死された。本市は高齢化率が高いため、孤独死が起きないように対応が必要。

誰一人取り残されないまちづくりを進めていく必要

性と、その実現に向けた関係部局との連携の必要性についての考えを聞きたい。

答 誰もが住みなれた地域で安心して住み続けることができるよう、地域共生社会の実現に取り組んでいる。これは、「誰一人取り残されないまちづくり」と同様の考えに基づくものとする。

市民の生活課題は多様化・複雑化が一層進み、一つの部局では対応が困難な事例も多くあるため、今後より一層関係部局と連携を強め進めたい。

問 本市では市立小・中・特別支援学校の全校でユネスコスクールに加盟し、SDGsを進められています。この目標は、誰一人取り残されないことを目指し、17の目標で構成されている。SDGsの観点から教育環境の整備について教育長の考えを聞きたい。

答 文部科学省のESD推進の手引の中で、教育が全てのSDGsの基礎であり、全てのSDGsが教育に期待をしている、特にESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、SDGsの17全ての目標達成に貢献すると述べてあ

る。今後も誰一人として取り残されないまちを目指して、ESDを推進していきたい。

問 葛飾区自治町会が作成された「地域防災マニュアル」などの取り組みを参考に、誰一人取り残されない防災・減災を進める必要があると思うが、考えを聞きたい。

答 このマニュアルは、地震発生後の個人の行動や地域での活動、河川氾濫時の避難情報の伝達や平常時の備えなどについて、大きな文字で写真やイラストを使ってわかりやすく表現されている。本市でも、地域防災力の向上が、災害に強いまちづくりの実現のためには最も重要と考える。



葛飾区自治町会地域防災マニュアル

保健所のこれからのあり方

問 福岡県へ移管されるまでの予定と課題を聞きたい。

答 来年4月1日に福岡県に移管する。課題は①市民生活への影響緩和、②市民等への周知徹底、③県への円滑な事務引き継ぎの3点。①は、指定難病医療費助成や食品営業許可等の申請手続きが集中する時期に出張窓口を開設してもらえよう、要望している。

市民サービスに混乱や支障を来すことがないように、移管の円滑な実施に努める。